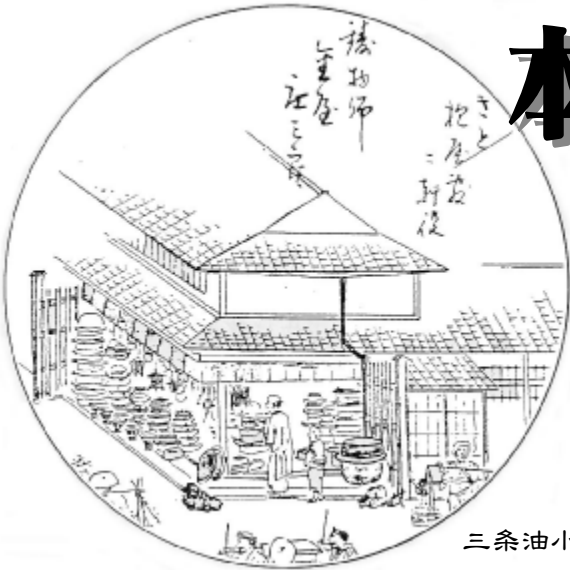


本能まちづくりニュース

第15号 平成14年12月21日発行

本能まちづくり委員会
委員長 西嶋直和

E-mail: post@honnoh.net
URL <http://www.honnoh.net>



三條油小路町絵図より 鑄物師 釜屋庄三郎方

“おいでやす染のまち本能” 四条京町家からスタート



↑ 四条京町家の賑わい

今年も11月16・17日に、歩いて暮らせるまちづくり推進会議が主催する「まちなかを歩く日 2002」が中京区の“田の字”地区(南北: 四条通～二条通 東西: 河原町通～堀川通)で行われました。本能学区では、本能まちづくり委員会が18軒の工房の御協力とボランティアの皆さんのお手伝いを得て、公開工房見学ツアーを開催しました。

今回は、四条京町家を拠点とし、職人技の



↑ 即売コーナー

実演、作品の展示・即売、公開工房見学ツアーの受付を行いました。

初日から町家は賑わい、実演を興味深げに覗き込んだり、写真におさめたり、質問したりする人、工房見学を申し込む人で、混み合いました。公開工房見学ツアー参加者は、16日76人、17日午前44人午後51人、案内人が引っぱりだこの人気でした。



四条京町家に展示された、松本氏、中東氏の作品

四条京町家での実演

片岡刺繍

☞ 刺繍 お茶会のお手前の装いにふさわしく、胸元に刺繍を施しておられました。集中力と根気が必要です。



≫生地を台に張ることすら、私には難しそうです。≪≪

≫お手前は座ってするので、お客様の視線が上半身に集中するからですね。≪≪

鹿島紋章工芸



☞**紋上絵** 着物に家紋を描き入れる作業です。墨を磨り、細筆・コンパス・定規などを使い、寸分の狂いもなく、細かい図柄を描いていけます。

>>>思わず息を凝らして、見せてもらいました。<<<

>>>紋が、一筆一筆で描かれていく過程を見ることが出来ました。同じことを真似しようと思っても全く出来ず、一本の線さえまともに引くことが出来ませんでした。それでも修行の真似事をさせていただいて、いろいろ教えていただいて本当に面白かったです。<<<

人出の多きを願って行われた本能まちづくり委員会の公開工房ツアーは、連日ともよき秋晴に恵まれて盛大なる催しでした。当方の今年の公開は、自宅ではなく四条京町家での、紋上絵実演となりました。好位置での開催の割には見学者数が少ないように思いました。自宅での実演と違って、人の途切れることは少ないが見学者が十人程の時や一人の時があり、順序立てた説明や実演がやりにくいという面もありました。ツアー待ちの時間を有効に使っていただくためには仕方がないと思いますが、説明の途中でツアーに出発される時には淋しいこともありました。折角来られた方々にはできるだけ丁寧に、と思っております。今後ともこのような催しが長く続いて、何か大きな流れを作り出すことができれば嬉しいが、と思いつつ二日間の実演を終らせていただきました。(鹿島敏雄)

岡田商店



☞**料理用野菜のむきもの (華刀流むきもの 若駒会)**素材は金時人参・くわい・さつまいも・南京・海老芋・高野豆腐等。松巻、白鳥の羽根、鯉のうろこの一つ一つまで丁寧に小刀を使って彫り出していけます。



>>>話しながら手が動いて、むき物が出来ていく様子が魔法のようでした。大黒様が高野豆腐で出来ているとは信じられませんでした。<<<

「おたくみたいに一人前になるのには、どれくらいかかりますの？」一人の参加者の質問にドキッとしました。「とんでもない、僕なんてまだまだですよ。」そう答えてみたものの、もう一人前になったつもりで更に上を目指して努力することを忘れてたんとちゃうかな？と、少し反省しました。『“まだまだ”は“もう”なり。“もう”は“まだまだ”なり』普段の生活の中で忘れかけていた気持ちを思い出したような気がすると同時に、公開工房は僕にとって非常に刺激のある良き勉強の場となっていることに気付きました。今回もお世話になりましたまちづくり委員会の皆様、ボランティアの皆様、本当にありがとうございました。(岡田典明)

公開工房見学ツアーに出発！

公開工房見学ツアーは、1コース3軒約2時間の予定で組まれました。期待と関心を持って来られ、コースを選択される方もおられました。時間的にゆとりがなく、全部に参加できなかった方もおいでしたので、紙上でご紹介しましょう。



松本金彩

☞**金彩加工** 金箔・銀箔で着物等に加工しておられます。細工の仕方のほんの少しの違いで仕上がりが異なる、微妙な手法をいろいろ見せていただきました。暑いともっと大変な仕事でしょう。四条京町家に黒留袖の作品を展示していただきました。



≫≫松本さんの人柄に惹かれました。そして職人さんとしてもすばらしいと思いました。金彩加工と言っても、金箔の貼り方によって、雰囲気全然違ったので、驚きました。≪≪

さわの道玄



☞**文化財の修復** 建築漆、建築彩色を主に、建造物文化財の修復、復元作業をされています。文化財修復には、剥落を止めて現状維持の処置をする(まるで医者さんのよう!)特殊な光線を当てたりしていろいろな角度から原状を探り出し、それに近く復元する、(国宝級の場合は原木はいじれないそうです)、現物とそっくりなものを新たに作り出す再創造等、現場に出張したり持ち帰ったり、いろいろな方法を駆使されているそうです。



≫≫歴史深い京都において、文化財の修復は不可欠な仕事だと思いました。≪≪

多田商店

☞**袴製造** 袴の製造及び袴の仕立ての仕事です。袴は糊が効いていて、一針一針、力が要るように見受けられました。

≫≫いつもは時代劇の中でしかお目にかかれない袴を、目の前で見られて面白いでした。≪≪



今年で公開工房に参加させて頂いて三回目です。一度目は不慣れなため、見に来ていただいた方に何を説明したらよいかわからない状態でした。今年は少しは慣れて、少しはうまく説明でき、見に来ていただいた方に楽しんでもらえたと思います。袴や袴は多くの方が、一生のうちに身につけることが少ないものですし、普段そう目にすることもありません。そうした人に、袴や袴のことをもっと身近に感じてもらえるこういう機会ありがたいものです。こうした機会を通して一人でも多くの人に、日本の昔からの祭りや神事に興味を持ってもらえたら、と思います。来年も「伝統産業の日」でより多くの人に袴や袴のことを身近に感じて知っていただけたら、と思います。(多田治)



馬場染工

☞**黒染** 黒紋付(喪服や男紋付)の黒染め加工の仕事です。平安時代から伝わる家紋のお話を聞きました。どれもすばらしいデザインです。紋の染色体験に恵まれるグループもありました。

≫≫実際に「染める」という体験ができ、家紋が身近な存在になりました。≪≪

福本糊工藝

☞糸目糊置 青花で描かれた下絵を餅米粉やゴム糊などの防染剤に置き換えていく工程で、糊置は染料液の侵入を防ぐ役目だそうです。糸目糊置・堰き出し糊置・白あげ糊置・まき糊などいろいろな技術を紹介していただきました。玄関に自作似顔絵のユーモラスな看板が!



>>>何気ない部屋で、こんなに高度な作業が行われているとは、思いもよりませんでした。

糊置の体験をさせもらい、“上手ですよ”とほめられました。手仕事の大変さを感じました。<<<

今回で2回目の公開工房になりました。少しは段取り良く説明できたように思いますが?多くの方々に「本もの」の技を見て頂き、和服の良さを少しは見直してもらったと思っています。皆様大変お疲れ様でした。(福本義孝)

森田整理



☞ゆのし整理 呉服の仕上げ加工全般の仕事で、湯のし・張り・湯通し地入れ・黄変防止加工・防水・撥水加工・その他着物着用後のケアなどをしておられます。

>>>布のしわを伸ばすという工程も存在していることを知りました。着物は分業制で作られることは知っていましたが、改めてそれを実感しました。<<<

主催者の方も受け入れ側も回を重ね、慣れて少しずつ良くなってきたように思います。前もって「今から30分後」「次が最終グループ」と電話を入れていただき、準備ができて助かりました。ただ、第三土曜で見ていただく商品が少なく普段の様子がわかってもらえないのが残念です。受付を屋内でされていましたが、外で皆さんのステキな笑顔とすばらしい話術で以ってされたら、とっつきもよくもっと沢山の方が参加されたのでは?と思います。得意先の人で「こんな機会があったら私も参加したい」と言う人がいました。もう少しPRの範囲を広げたらより多くの人に見に来ていただければ、スタッフの御苦労も報われたことと思います。お世話になりありがとうございました。(森田實)

露地裏ぎやらしい 斉藤光保氏

☞友禅染作家。大学時代は現代アートを手がけておられたそうです。愛娘のために製作された華麗な打ち掛けの前で、伝統的手法を再検討しつつ、既成概念を打破する創作への意欲と「本能学区は創作文化発信基地である」との想いを、熱く語っていただきました。

>>>ビデオを見せていただきました。オリジナルな技法を編み出して、それを娘さんの打ち掛けに使うということに、親の愛と職人のこだわりを感じました。<<<

>>>染めに限らず、いろんな技の持ち主が結集することで生まれるセンスを、世界を視野に入れて演出していただきたいものです。<<<



打ち掛け→



中東染工

☞型友禪染の仕事 何枚もの型紙を使い、図柄がずれないようにピッタリ合わせて色や柄を染め上げていけます。良質の和紙や腕の良い型彫り職人の減少で、昔ながらの、和紙を何枚も重ねて貼り合わせたものを彫った型紙が、なくなってきているそうです。生地を貼り付ける12mの一枚板も貴重です。四条京町家に作品展示。見学時に製作しておられた染額は、どなたの手元に届いたでしょう？

≫≫少しずつ、何回も色を重ねてつくられる京友禪に魅了されました。≪≪

林龍昇堂

☞薫物やお線香の製造販売の仕事です。防虫・殺菌効果のある御香のお話を聞きました。御香の原材料一つ一つの香りを知り、各自が好む香りのにほい袋を作らせていただきました。今もほのかな香りがしています。



≫≫店内は、お香の香りが漂い、古都・京都のイメージを感じました。≪≪

香りの歴史の説明では正倉院の「蘭著待」の沈香についての質問を受け、線香等の原材料展示・説明では「麝香」に興味をもっていただいたようです。香辛料に使われている原料に関してはご存知の方もおられ、軽快に説明を進められてほっといたしました。今回はお好みの香りを調合してオリジナルの「にほい袋」づくりを体験していただきました。なにぶん小さい袋ですので香りの割合に苦労されたようですが、気に入った「にほい袋」ができたでしょうか？食べ物でも好き嫌いがあるように香りにも好き嫌いがあり、製作中の皆さんを見ていると今後の参考になりました。楽しく有意義な時間を過ごさせて頂き、ありがとうございました。(林慶治郎)

荒木金彩



☞金彩加工 純金箔・銀箔を使用した、盛り上げ加工を中心とする手描き金彩加工の仕事です。糊の置き方、金箔ののせ方、糊の拭き方、一つ一つ心を込めて丁寧に製作されているのがよくわかりました。マライヤ・キャリアの衣裳に金彩をほどこされたそうです。蝶々の柄です。彼女の衣裳にご注目を!

≫≫親子三代続いた技が、四代目に引き継がれるとよいですね。≪≪

印染工房土山

☞印染 家紋や名前、柄等を染める仕事。工房には、多くの染料や、刷毛などの道具類が置かれていました。どれも年期が入っており、職人の仕事部屋という感じでした。かつては、風呂敷や袱紗を中心に仕事をされていたのですが、最近は暖簾の染めも手がけておられるそうです。天井に沢山の作品が干してあったのが印象的です。染めの実演をしていただき、職人さんの手際の良さに感心するとともに、藍色の鮮やかさが美しく感じられました。

≫≫近所のお店でも、ここで染めた暖簾を店先に掛けていることがわかり、店先の暖簾を意識して見るようになりました。≪≪





村田 縫紉

☞ 刺繍 玄関脇の階段を上がってすぐの六畳ほどの部屋が、村田さんの仕事場です。生地を貼る台、絹糸、道具類、テレビくらいしか物がなく、すっきりとしています。太さが1ミリあるかどうかぐらいの細い針の針穴に、さらに細い絹糸を通します。直径3センチほどの円の中に、何回針を刺すのでしょうか、根気の要りそうなお仕事です。

>>>刺繍で描いた馬は、まるで生きているようでした。<<<

神谷 紙器工業



☞ 紙箱製作 縦長の敷地に建った、奥行きのある二階建ての建物です。一階の表側では、ここで作られた色々な紙箱が飾ってあります。細い土間を抜けた、一階の奥では、紙を型にあわせて切る作業をしています。箱の芯になる厚紙と、上から貼る紙で、切る形が異なります。木の階段を上り二階へ行くと、箱を組み立て、紙を貼る作業をしています。紙を貼る作業は、ベルトコンベアで運ばれてくると同じペースで仕事をせねばならず、大変そうです。そこで働く方たちには、無駄な動きが無く、熟練を感じました。

>>>紙箱作りの国家検定があるなんて、知りませんでした。箱は中身の品を保護するだけでなく、製作者の心を包み込んで、買った人に伝えます。箱が作り出される過程を知ると、中身がなくなっても、箱にいとおしさを感じ、捨てられなくなりました。<<<

中村 和蠟燭

☞ 和蠟燭製造 小さな工房で、和蠟燭の製造・販売がされています。いろいろなサイズの蠟燭が置いてあり、滅多に出回らない特大サイズのものも見るができます。祝い事には赤い蠟燭、仏事には白い蠟燭を使用します。紅白の蠟燭を作るために、赤い液体、白い液体の入った大きな鍋が置いてありました。一本一本、色を塗っておられるので、どうしてなのか尋ねたところ、「昔からの言い伝えで、芯まで色を塗ってはだめだと決まっているから」という答えが返ってきました。和蠟燭のやんわりとした炎を生み出すには、職人さんの技と根気が必要なのです。インテリアになるような綺麗な絵付けもされています。四条京町家の即売コーナーに出品していただきました

>>>和蠟燭を初めて見ました。炎がとても美しいでした。一本一本、手作業で仕上げられ、その丁寧さは、すばらしいと思います。<<<



高岡 由充氏



☞ 下絵描き 青花で下絵を書く仕事です。高岡さんが描かれた藤の花をあしらった着物姿の吉永小百合さんの、サイン入り写真がありました。染の工程に下絵描きは必要ですが、着物が出来上がった時には「自分の仕事は消えてなくなるもの。」というお言葉が印象的です。掛け軸など自分が作って形に残るものも製作しておられます。京町家の即売コーナーに手描きのコースターを出品していただきました。

>>>下絵だけでなく、自分の作品も作っておられました。高岡さんの器用さを感じました。<<<

若者が見た公開工房

公開工房のお手伝いをして、京都は伝統のある町だということに改めて感じた。職人さんの技術と根気は、すごいと思った。過去から伝えられた技を現在にも受け継ぎ、未来にもつながっているのかと思うと、伝統の深さに触れたような気がした。しかし、最近は、材料の入手が困難になり、作業行程が変わったと聞いた。職人さんも「本物だとやりやすくて、出来が違う。」と言っておられたので、とても残念だ。地元の問題だけでなく、環境や社会の問題とも結びついていると思った。

今回、多くの工房をまわり、素晴らしい技を見ることができてよかったと思う。どの作品もすばらしくて感動した。そして京都の文化としてあり続けてほしいと思った。(京都府立大学 藤原真理)

身近なところにありながら初めて見た工房。表からは見えない敷地の奥で働く職人さん達は、皆さん親しみやすい方で、仕事を楽しんでいるように見えました。しかし、伝統を絶やしてはならない、という責任感や、天然素材ではなく化学染料に頼らざるを得ないことへの妥協と葛藤に悩む厳しい面も見られました。同じような強い意志が本能まちづくり委員会の方たちからも感じられ、まちを守っていこうという熱意は、まちの人全員の気持ちなのだ、と感じました。ツアーに参加した方達の中には、昔住んでいた人もいて、消えてしまった自分の家を残念そうに見ていました。でも、まちは変わっても、そこに住む人達の気持ちはかわっていないのを見て、力強いまちだなと感じました。(京都府立大学 池田陽平)

公開工房に参加させていただいたことは、本能まちづくり委員会でお会いしたことのある方々の、お仕事について知る、良い機会となりました。本能学区は職人さんの多い地域であることは知識として知っていました。ですが、実際に、お仕事や、普段よりも凛々しいプロの表情を見せていただくことで、理解がぐっと深まりました。まちづくりにとって、そこに住む方たちが互いの理解を深めることは、とても大切なことです。公開工房は、本能学区に新たに転居して来られた方たちに、本能学区を理解していただく最良の方法だったと思います。このような取り組みを通して、本能学区が、さらにより地域になっていくに違いないと思いました。最後になりましたが、楽しかったです。ありがとうございました。(京都府立大学 村上真樹子)

いつもまちづくり委員会に参加させていただいている縁で、公開工房に参加させて頂きました。公開工房では本能学区内の様々な工房を巡り、職人さん達の技や思いを堪能させていただきました。この公開工房はイベントとしてもとても面白く、お手伝いをさせていただいているはずの私もすっかり楽しんでしまいました。参加されていた方たちは職人さんの語りに真剣に耳を傾けて聞いていて、関心の高さも感じました。中には学区内に住んでいらっしゃる方もいて、同じ学区に住んでいながら新しい発見をしたと仰しゃっていました。このイベントを通して、学区内の新しいつながりが出来始めている様を目にすることが出来ました。

このような出会いは、まちづくりの始まりのように思います。このような出会いのきっかけを作って行けるのは、やはり本能学区に様々な資源があるからだと思います。そしてこのようなイベントをプロデュースできるのはまちづくり委員会ならではのなだ感を感じました。このイベントに参加させていただいて本当にありがとうございました。(京都府立大学 高本直司)

今年の9月以来、本能まちづくり委員会のご協力のもと、大学の研究において京都都心地区の住まい方に関して調査することになり、その縁でまちづくり委員会に出席させていただくようになりました。住んでおられる方々のご意見や思いを直に聞くことができるため、大変有意義な場であると感じながら皆さんの意見交換に耳を傾けています。また、「まちなかを歩く日」には公開工房ツアーのお手伝いとして工房での仕事ぶりを見て回りましたが、本能学区の歴史ある暮らしぶりに触れられた思いがしました。日頃の活動からまちづくり委員会の皆さんが本能学区に誇りを持っておられる様子が垣間見られ、住民参画のまちづくりの良さや重みを感じています。(大阪大学大学院 福田 拓矢)

本能まちづくり委員会の
次回開催は

平成15年1月14日(火)午後7時から
場所 本能会議室 当日飛び入り歓迎!!

絞り染体験工房



↑絞り染めの説明を受けて



↑園さんの工房で

高倉小学校の児童対象の絞り染体験工房を本能会議室で開きました。低学年はお母さん同伴で、お母さん方も手助けに大変でした。デザインを決め、青花で下絵を描き、生地をつまんでたこ糸で根気強く丁寧に絞ります。園さんの工房に伺い、色見本から自分の好きな色を選んで調合してもらい、漬けて、脱水、乾燥させて、糸をほどいたら、ほら！この通り。世界に一つしかない色と模様の、自分の手袱紗ができました。“たのしかった”と子供達。お母さん方もお疲れ様でした。

決め、青花で下絵を描き、生地をつまんでたこ糸で根気強く丁寧に絞ります。園さんの工房に伺い、色見本から自分の好きな色を選んで調合してもらい、漬けて、脱水、乾燥させて、糸をほどいたら、ほ



↑世界で一つの自分の手袱紗

三条通では



↑三条通のガリバーマップ

“もてなし往来！三条通”が行われており、三条小川の角に、ガリバーマップが展示されていました。これは、工芸繊維大学の学生さん作成の現代三条通まちなみ姿図の拡大版。原寸の作品が四条京町家に展示されていました。夕方、京町家を片付けての帰り道、三条通りにはカラフルなランタンが並び、幻想的



三条通を飾るカラフルなランタン

な雰囲気、疲れが癒されました。

伝統産業の日に開催

“おいでやす染めのまち本能” ～ほんものの技～

とき:2003年3月21日(金) ところ:四条京町家

体験工房ツアー

公開工房ツアー

マイキモノプロデュース

四条京町家での実演

編集後記 ○本ものの手仕事の技を見せていただき、体験もさせてもらって、根気と集中力と熟練を要することを実感しました。これこそ本能の気風として今まで受け継がれ、私たちも後世に伝えるべきものだと思います。N村
○毎日寒いですね。でも今年は本能の人の暖かさを実感した年でした。来年もよろしくお願ひします。3.7
○いかがだったでしょうか。今回は、「歩いて暮らせる街づくり」特集で、2ページ仕立てです。まもなくお正月です。皆さんよいお年をお迎えください。OM
○本能まちづくり委員会のホームページのアドレスと、メールアドレスがが変わりました。
URL→ <http://www.honnoh.net> E-mail→ post@honnoh.net